

## 1 はじめに

本校は、今年度から義務教育学校となり、1～9年生が同じ校舎内で生活するようになった。そのため、これまで以上に前期課程（1～6年生）と後期課程（7～9年生）の交流が増え、これまでとは違った集団生活の中で特別活動を行った。

今年度は義務教育学校である強みを生かし、異学年交流を通して望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の実践に努めた。

## 2 資料（異学年交流活動）

### （1） 地域オリエンテーリング

5～9年生が、地域のよさを発見しながら歩く活動を行った。中里発電所や玉簾の滝といった地域に関係の深い場所を歩き、異学年間で役割を分担し、協力して問題を解いたりタイムを計測したりした。



（オリエンテーリング）

### （2） マナーアップキャンペーン

本校には日立市内のいろいろな場所から児童生徒が通学してくる。全学年が活動に参加し、徒歩通学の児童生徒は中里小中学校前の道路であいさつ運動を行った。また、今年度からスクールバス通学の児童生徒は日立駅であいさつ運動を行った。



（マナーアップキャンペーン）

### （3） 5～9年生で行う生徒総会

これまで後期課程のみだった生徒総会を、今年度は5～9年生の児童生徒が参加して行った。生徒会役員会メンバーを中心に、学校生活をより良くするためにどのようなことができるのかを話し合った。



生徒総会

## 3 成果と課題

- ・地域オリエンテーリングでは、後期課程の生徒たちがリーダーシップを発揮し、チームごとに役割分担をして活動に取り組んでいた。各ポイントで出された問題に取り組む際には、活発な話し合いが行われ、どのチームも自分の考えを伝え合いながら答えを導くことができていた。
- ・マナーアップキャンペーンでは、今年度はバス通学者が増えたこともあり、従来の校門前での活動に加えて、日立駅でのあいさつ運動を行った。通行量のより多い環境で活動を行ったことで、参加した児童生徒たちは、公共の場にふさわしい行動を意識しながら、活動に取り組むことができていた。
- ・生徒総会では、5～9年生が委員会活動や学校生活をより良くするための提案や疑問を話し合うことができた。5・6年生は初めての参加であったが、自分たちが学校を作っていく立場であることを意識して発言していた。
- ・今年度は、初めて義務教育学校になったこともあり、さまざまな試みを行った。今後は、児童生徒の発達段階を考慮した特別活動の実施とともに、5・6年生がリーダーシップを発揮できる場をより確保することも検討していきたい。